

2010. 12. 22分科会

- 1、ニュース 沖縄レンタカービジネスの開始
- 2、環境未来都市プロジェクト
- 3、環境未来都市の共同設計
- 4、CSSDの普及策

2011年に向けた提案

A-1. CSSD研究会の発足

スマートコミュニティー、スマートビル、スマートハウスの電気経営(Energy Management System)ソフトウェアを共同開発し、日本標準にまで高める。東大のCSSD(Computational Social System Dynamics)を基本とし、電力需要と自然エネルギー発電の予測法を組み込むなどの数々のバージョンアップをこの研究会に参画する企業グループが行う。電力需要予測、RE発電予測、電池の劣化を考慮した電池経営などは大変難しく、中期的に技術のレベルアップをすることが重要で、なおかつこの部分が知財競争力の中心になっていくでしょう。

A-2. CSSDクラウドサービス会社とユーザー会

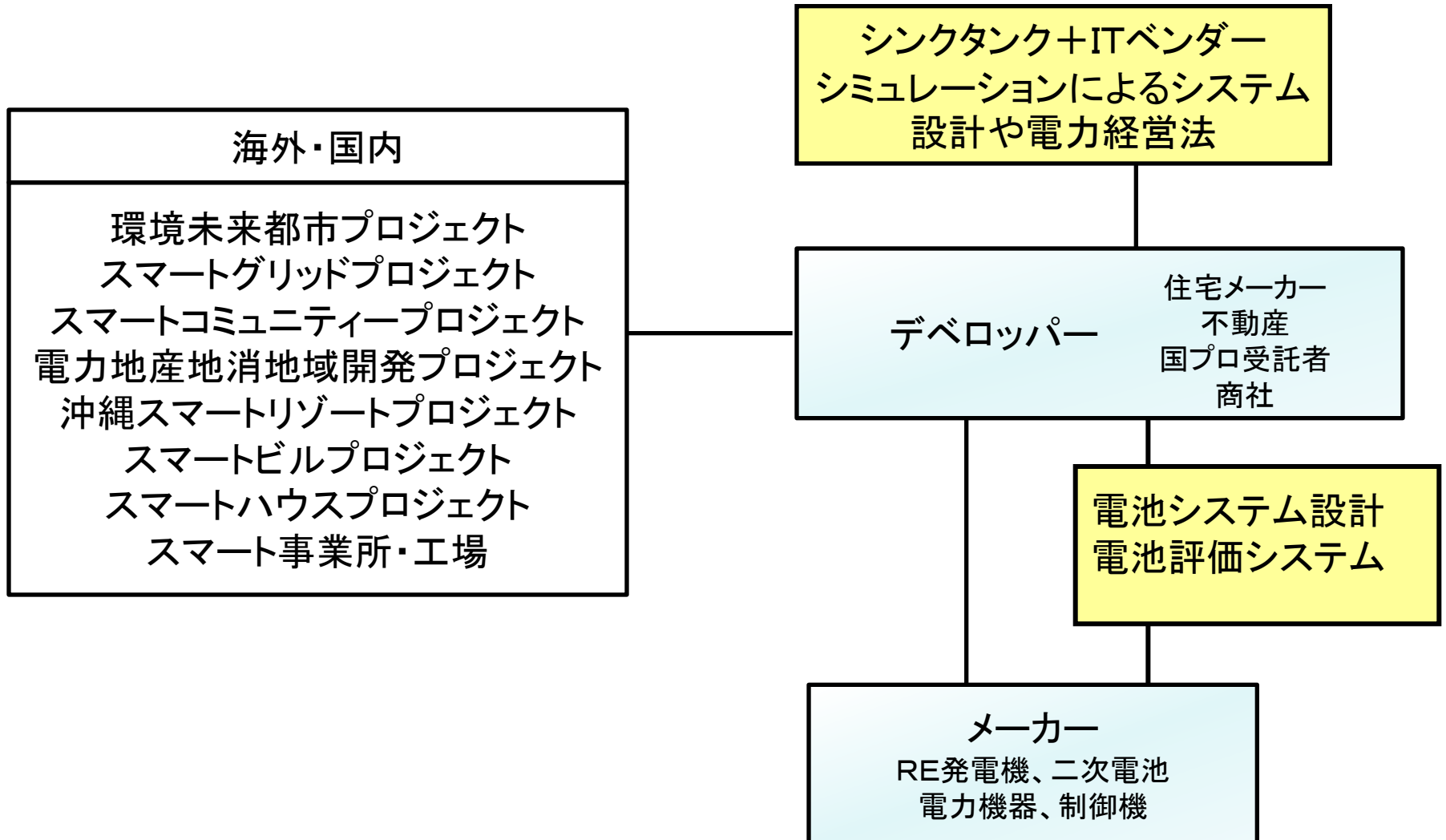
ある特定の企業(IT&コンサルティング)がCSSDの開発、発展、普及の中心になります。ユーザー会とWIN - WINの関係を作り、共同してソフトウェアを進歩させ標準化していくとともに、具体的なスマートエネルギープロジェクトを最もスマートに実行していきます。

B.環境未来都市設計プロジェクトチームの組織化

「二次電池社会システム研究会」を土台として、会員各社から参加企業を募り、環境未来都市プロジェクトを具体的に企画立案するグループを作ります。シミュレーションによる設計、詳細計画・仕様設計、採算を含めた経営計画の策定をビジネス的に行います。

国内ではモデル都市の他、モデル都市ではないもののプロジェクトの成功確率の高い石垣市などを選定し、環境エネルギー社会システム設計を行い、地方公共団体の企画立案をシンクタンクとして支援し、国のプロジェクトに発展させ、更には、この能力を高め、海外へ輸出していきます。海外ではインドのODAプロジェクトを始めとして様々な可能性があるでしょう。

環境プロジェクトを成功させるための仕組み



環境都市支える 基盤ソフト開発

東芝ソリューション
東芝ソリューション

(東京・港)は、次世代
送電網(スマートグリッ
ド)などを駆使した環境
配慮型都市「スマートコ
ミュニティ」を支える

基盤ソフトウェアの開発
に着手する。同社はソフ
トの開発や販売のため数
十人規模の専任組織を年
内に設置する。「都市丸

こと受注」を掲げる東芝
本体と一体で国内外での
受注を狙う。基盤ソフト
は電力計などの各種セン
サーから情報を収集した
り、電力、水道など異なる
公共システム同士で情
報を交換したりといった
機能を担う。

